
僕の憂鬱

黒暁

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の憂鬱

【Nコード】

N7235C

【作者名】

黒暁

【あらすじ】

普段と変わらない日常。だが、僕の憂鬱は、この朝から始まる…。

僕の朝は、この足音から始まる。

ドタドタドタドタ

来た！！

足音は、どんどん僕の方に近づいて来る。

来る！！

「パパ、おはよう！」

男の子の手のひらが光る。光りは、手のひらから離れ、僕に向かって来た。

僕は、それを手のひらで受け止める。

ジュツという音とともに光りは、消える。

「コオラ！カゲト、パパを殺す気か！」

「だっていつものことじゃん。」

無邪気に笑う、我が息子、カゲト。

そう、いつもの事。

僕たちの世界は、特殊能力を持つ人間の集まりである。

特殊能力は、階級に分かれている。僕の仕事は、特殊能力で悪事をする奴らを捕まえる仕事。

毎日忙しく動き回っている。

だから、朝は時間が許す限り眠っていたい。

だが、早起きの五才のカゲトには、それは、許されなかった。いつも起こしてくれるのは、ありがたいが、特殊能力で起こされるのは、たまったもんじゃない。

カゲトの特殊能力は、低いから死ぬ事はないが、カゲトが成長して力も高くなった時に使われたらと考えるとゾツとする。

・ボサボサの頭を掻きながら、僕は、仕方なく起きる。

「おはよ。あなた。」

僕の妻、雪が爽やかに言う。

「おはよ。雪。カゲトに力で起こすのは、辞めるように君からもいつてくれ。」

「あら、いいじゃない。」

ニツコリしながら雪は言う。

…雪は、こういう奴だ。さっぱりとしている性格というか…。

食事を終え、着替えて仕事場に向かう。

「いつてきます。」

カゲトの頬にキスをし、雪の口にキスをして家を出る。

「明日は、どんな技でパパを起こそうかな。」
カゲトは、無邪気に言う。

僕の憂鬱は、まだまだ終わりそうにない。

f i n

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7235c/>

僕の憂鬱

2011年3月17日18時38分発行